

アイオー信用金庫平成 18 年度決算概要

(単位：百万円)

	平成 17 年度	平成 18 年度	増減額	増減率
預 金 残 高	221,403	222,836	1,433	0.64%
貸 出 残 高	143,025	151,765	8,740	6.11%
業 務 純 益	1,345	1,380	35	2.64%
(実質業務純益)	1,333	1,217	116	8.70%
経 常 利 益	1,083	828	254	23.50%
当 期 利 益	356	585	228	64.50%
自 己 資 本 比 率	8.42%	9.20%	-	0.78
預 貸 率	64.59%	68.10%	-	3.51

今期決算の内容

1. 主要勘定

預金については、前期比 1,433 百万円増加の 222,836 百万円 (0.64%増)、貸出金については、同 8,740 百万円増加の 151,765 百万円 (6.11%増) と 2 期連続しての増加となりました。主な要因としましては、アパート関連資金が堅調だったことや、製造業の好況を背景に大型設備資金需要等があったことが挙げられます。

2. 損益状況

本業のもうけを示す業務純益につきましては、預金利息が金利引き上げに伴い増加したものの、貸出金利息が 310 百万円増加したほか、不良債権処理が一段落したこと等による一般貸倒引当金の戻入等によって、前期比 35 百万円 (2.64%増) の増加となりました。

また、固定資産の減損損失額が減少し、最終利益は前期比 64.05%増加の 585 百万円となり、合併後最高益を計上することができました。

また、貸出金利息の増加が利上げによる資金調達コスト増加分を吸収し、総資金利鞘は 0.37%と 0.04 ポイント改善いたしました。

3. 自己資本比率の状況

自己資本比率につきましては、当期利益の増加 (前期比 64.5%増)、有価証券の含み損の減少、不良債権処理が進んだこと等によって、前期比 0.78 ポイント改善し、9.20%となりました。

4. 不良債権の状況

貸出金に占める不良債権の割合は、金融再生法に基づく開示債権基準では、前期の 8.27%から 6.94%となり、1.33 ポイント改善されました。

また、保全率は 95.11%となっておりますが、特別積立金 8,200 百万円を計上しておりますので、当該債権額が全額カバーされております。

なお、19 年度は更に不良債権処理を進め、不良債権比率が 5%台となる見込みです。

【金融再生法に基づく開示債権】

(単位：百万円)

	平成 17 年度	平成 18 年度
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	4,995	5,024
危険債権	5,701	4,921
要管理債権	1,225	667
正常債権	132,120	142,111
合計額	144,042	152,725

5. 繰延税金資産についての考え方

当金庫は、資産の健全性を図る見地から繰延税金資産の計上はしておらず、当該資産によって生ずる最終利益の底上げはありません。

したがって、将来、繰延税金資産の取崩しによって利益が下ぶれする懸念は一切ありません。

6. 来期の見通し

来期においては、融資残高につきましては、小零細企業の育成・支援の注力と、住宅ローンを中心とした個人向け融資を 2 本柱として 5%程度の増加を見込んでおります。

また、役務取引等収益を視野に入れた投資信託等の個人預かり資産につきましても、顧客保護を前提に新たな収益源とする体制を整えて、最終損益は、預金利息等の調達コストの増加を織り込み、概ね前期並みと見込んでおります。

以上